

# 大津あきら 詩碑

少年  
漁場抒情

作詞  
作曲 大津あきら  
歌手

もう遠い昔の事だけど  
僕はこの町で生まれ育った  
澄んだ海と青い空に  
僕はきっと満足していた

そしていつか君と出会う  
世界はまるで変わってしまった  
冷たい風は走り抜けるし  
低い雲まで背負ってしまうし

まわりの人を気にすることなく  
毎日毎日手ぶらで過ごした  
君もいなくて悩むことも  
苦しむこともまったくなかった

夜をまたいで君の影が  
何度も何度もしのび寄って  
君との景色をひろげながら  
僕の想いに拍車をかける

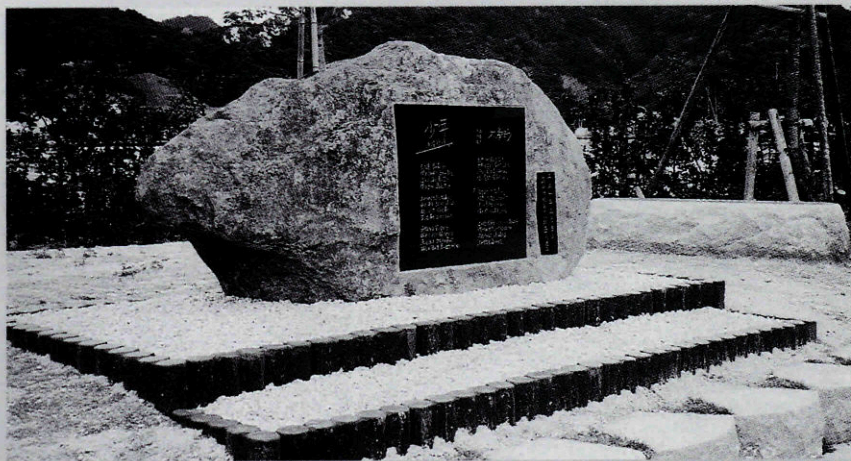
子供たちは笑いながら  
町中ぐるりと駆けめぐり  
魚は泳ぎカモメは飛んで  
誰もが皆んな思い出をつくった

このまま季節をいくついくつ越えたら  
僕たちの世界は始まるだろうか  
指をくわえて通り過ぎる  
人の行方を追いかけて

刻まれている詩は、彼の少年時代の思い出をつづったものといわれ、作詞家としての初期のころの代表作。  
平成10年3月、夫人の根岸季衣（女優）さんから遺族を招き、除幕式が行われた。（正）

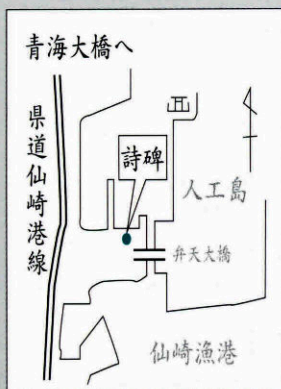
大津あきら（本名・彰）は「心の色」（日本作詞大賞受賞）、「輝きながら」など、数々のヒット曲を世に出したが、平成9年4月、惜しくも47歳の若さで他界した。

仙崎漁港・人工島入口（弁天大橋西詰め）のすぐ北側にこの碑が建てられている。仙崎出身の作詞家、大津あきららの詩碑第1号である。中学校時代の、彼の同期生（仙崎中第18期生）らが建立した。



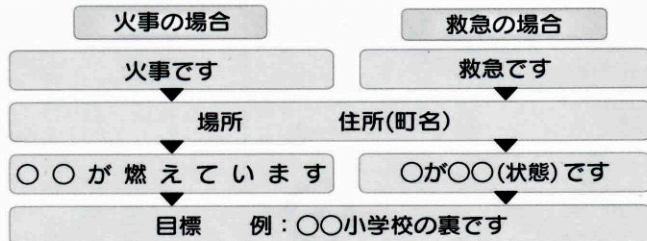
（寄稿・長門市郷土文化研究会）

位置図



## 火事・救急・救助は「119」

通報は、ゆっくり、はっきり、落ち着いて



長門地区消防本部・中央消防署  
火災時の問い合わせ  
☎222-0119  
☎222-1414

こちら119